

令和元年度 中間貯蔵事業技術検討会（第1回） 議事要旨

1. 日 時：令和元年6月3日（月） 15:00～17:00
2. 場 所：JESCO 本社 5階 A 会議室
3. 出席委員：森田委員長、大迫委員、勝見委員、国包委員、吉岡委員
（オブザーバー） 環境省

4. 議 題：

（1）JESCO が中間貯蔵事業において行う調査研究及び技術開発について

減容・再生利用の技術開発や中間貯蔵事業の進捗を踏まえ、どのような考えのもとで JESCO は研究開発等を進めていくことが必要かについて、論点及び具体的な取組を説明。主なコメント等は以下のとおり。

- ・ ばいじんの更なる減容化に向けた検討として飛灰洗浄技術の実証試験を行うことは、今後の方向性として妥当である。ある程度成熟した洗浄技術から、基礎レベルにある部分もある吸着や廃棄体化技術に向けて、段階的にスケールアップしながら実証を進めていくことが考えられる。
- ・ 除去土壌等の減容等技術実証事業において採択した中間貯蔵施設事業等に対する理解醸成に関する調査研究について、JESCO の事業で3年やって終わりではなく、次のフェーズに合わせて、実際に再生利用の用途を付けることに具体的によりつながるような形の取組が必要ではないか。
- ・ 中間貯蔵に係る事業を今後持続可能な形で運営していくためには、パートナーとなっていく民間企業側での人材育成にも目を向けることが必要。例えば、将来マネジメントに関わっていく技術者の方々に対して、これまでの経緯や今後重要となる事柄に関する基本的な教育・研修を業務として検討してはどうか。
- ・ 中間貯蔵に係る事業の施工管理上のデータが、再生利用や最終処分に向けた取組においてどのように活用できるか、例えばどのような性状の土が対象となるかということの元になるような情報が整理されているかという観点が必要ではないか。

（2）技術的調査・検討業務等について

- ・ 除去土壌等の減容等技術実証事業では、良い技術を開発すれば実事業に活かしているということを理解した上で取り組んでいただくことが必要である。
- ・ 一般の方々への情報発信とは別に、実証事業に関わるような事業者に向けて技術開発等の情報発信、更には事業者間での情報交換の促進に努めることが重要である。

（3）その他

特になし

以上